



平素は、「医療福祉・在宅看取りの地域創造会議」へのご理解・ご協力ありがとうございます。

新元号が始まって一か月が経ちました。意外とすんなり馴染めたように感じるのは、施行までに時間があっただけでしょうか。そして『令和初の〇〇』が目白押しの今日この頃。当会議でも『令和初のワーキンググループ会議』を、久しぶりに北部地域で開催致しました。今年度は長浜や近江八幡でも開催予定です。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

第74回ワーキンググループ会議(5/23) ひこね燃ばれず 会議室

今年度は**自立排泄支援プロジェクト**を柱にしています。4月・5月・7月・10月・1月・3月の全6回シリーズです。「今はまだ関係ないわ」という方も、ご家族あるいはあなた自身がいずれこの問題に直面する日は来るかもしれません。現在介護中の方や介護職の方はもちろん、そんな方にもぜひ聞いていただきたい内容です。参加できなかった回の資料もお渡ししていますので、可能な月だけでもぜひご参加ください！

自立排泄支援プロジェクトの第2回目は、13名の初参加の方を含む41名で開催しました。いつもは介護職・医療職の方の多い当会議ですが、今回は不動産・建築関係、医薬品卸など、企業の方にも多くご参加頂きました。



ポイント

- ☆薬による排尿障害のほとんどは「尿閉」。感冒薬や抗ヒスタミン薬にも入っている抗コリン作用の薬が引き起こすことが多い
- ☆認知症の中核症状による排泄への影響として
 - ・トイレの場所、排泄したことを忘れてしまう
 - ・トイレの表示、文字の意味がわからず、記号にしか見えない
 - ・便失禁を自分でなんとかしようとして汚染が拡大する等
- ☆排泄の困った状況で、ついやってしまいがちなのが3つの身体拘束『魔のスリーロック(スピーチロック・フィジカルロック・ドラッグロック)』。今一度、振り返ってみましょう。
 - ・対応に困ったと感じた時は、認知症の人も困っている。その心情と状況への理解が必要。
- ☆知識が入ると現場が変わる。知らないということが一番困る。
- ☆現場で意見を出し合い、皆で考えてやってみる。何がヒットするかわからないので、引き出しを増やすことが大切。

次回のワーキンググループ会議

6月20日(木) 18:30~20:00
 於：滋賀県庁北新館 5A会議室(大津市)
 テーマ「福祉理美容とは～最期の時まで美しく～」
 話題提供者：きれいやプラスワン 北川 美子 さん

4月「自立排泄支援プロジェクトの概要」

彦根市立病院 北川 智美 さん

5月「薬剤師からの薬による尿閉、排尿障害等の副作用のあるある」
 リリー薬局 池田 富美子 さん

「認知症高齢者の排泄行動とそのケア」

彦根市立病院 藤井 裕子 さん

7月「施設における認知症の排泄ケアの実践」(仮)

社会福祉法人青祥会 藤井 優子 さん

10月・1月「排泄支援事例の意見交換」(調整中)

3月「自立排泄支援プロジェクトのまとめ」(調整中)

次第



- ☆あいさつ・自己紹介
- ☆前回の振り返り
- ☆むつき庵レポート
- ☆「薬剤師からの薬による尿閉、排尿障害等の副作用のあるある」
 ◎リリー薬局 薬剤師 池田 富美子 さん
- ☆「認知症高齢者の排泄行動とそのケア～困っているのは誰?～」
 ◎彦根市立病院老人看護専門看護師 認知症看護認定看護師 藤井 裕子 さん
- ☆総括 ◎彦根市立病院地域連携センター長
 皮膚・排泄ケア認定看護師 北川 智美 さん
- ☆事務局からのお知らせ

感想等



- *トイレの表示がわからないなら、ドアを開けておいたり電灯をつけておくなど、目視で確認できるようにしてはどうだろう。マークでわかりにくいなら「便所」「厠」と書くなど工夫も必要
- *「すべてを認知症のせいにはしない」「認知症は特別なことではない。認知症だからできないとは思わない」という言葉が印象的。認知症を理解し、その人のこれまでの生活背景を見ることも大事
- *薬によって症状も十人十色。個人差を大事にして対応したい
- *在宅の現場では薬剤師に入ってもらっているケースは少ない
- *支援する側が良かれと思ってやっていることも、される側にとってはそうではないことがある
- *「魔のスリーロック」は誰がされても嫌なこと。コミュニケーションの仕方のヒントにしたい
- *スピーチロックの例として、余裕がなかったり自信がなかったりすると、つい「ちょっと待って」と言ってしまう

医療福祉・在宅看取りの地域創造会議運営事務局

(滋賀県庁 医療福祉推進課内) 金岡・西浦

TEL:077-528-3529 FAX:077-528-4851

E-mail:info@chiikisouzoukaigi-shiga.jp

